

第1章 総論

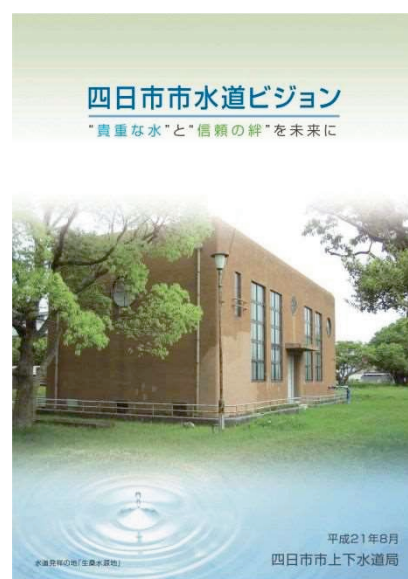
1. 策定の趣旨

本市水道事業では、安全で良質な水道水を将来にわたって安定的に確保し、お客さまから信頼される水道を目指して、「**“貴重な水”と“信頼の絆”を未来に**」を基本理念として掲げ、平成21年8月に「四日市市水道ビジョン（以下「旧ビジョン」という）」（計画期間：平成21年度～平成30年度）を策定しました。この旧ビジョンでは、「安心」「安定」「持続」「環境」「管理」「国際」の6つの視点から、現状分析を踏まえ将来見通しを行い、基本理念のもとに本市の理想像を設定し、持続可能な水道を目指すために、具体的な事業や取り組み内容を定め、事業運営に努めてきました。

厚生労働省では、人口減少社会の到来による給水人口や給水量の減少による料金収入の減少、東日本大震災の経験を踏まえた抜本的な災害対策の見直し、高度経済成長期に整備された老朽化施設の更新など、水道事業を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、これまでの「水道ビジョン（平成16年6月策定、平成20年7月改訂）」を全面的に見直し、平成25年3月に「新水道ビジョン」を策定しました。この「新水道ビジョン」では、来るべき時代に求められる課題に挑戦するため、「安全」「強靱」「持続」の視点から水道の理想像を明示するとともに、取り組みの目指すべき方向性やその実現方策、関係者の役割分担が示されています。

本市においても、これまでは給水区域の拡大に合わせて段階的に拡張事業を展開してきましたが、今後は、これらの施設の老朽化が進行し、更新費用が増大する中、少子化による人口減少社会の到来により、これまで経験をしたことのない厳しい経営環境が訪れようとしています。

このような水道事業を取り巻く環境の変化や今後の水道事業の課題に対応するため、旧ビジョンを抜本的に見直し、厚生労働省の「新水道ビジョン」を踏まえた新たな「四日市市水道ビジョン2019」を策定しました。



四日市市水道ビジョン
(平成21年8月策定)

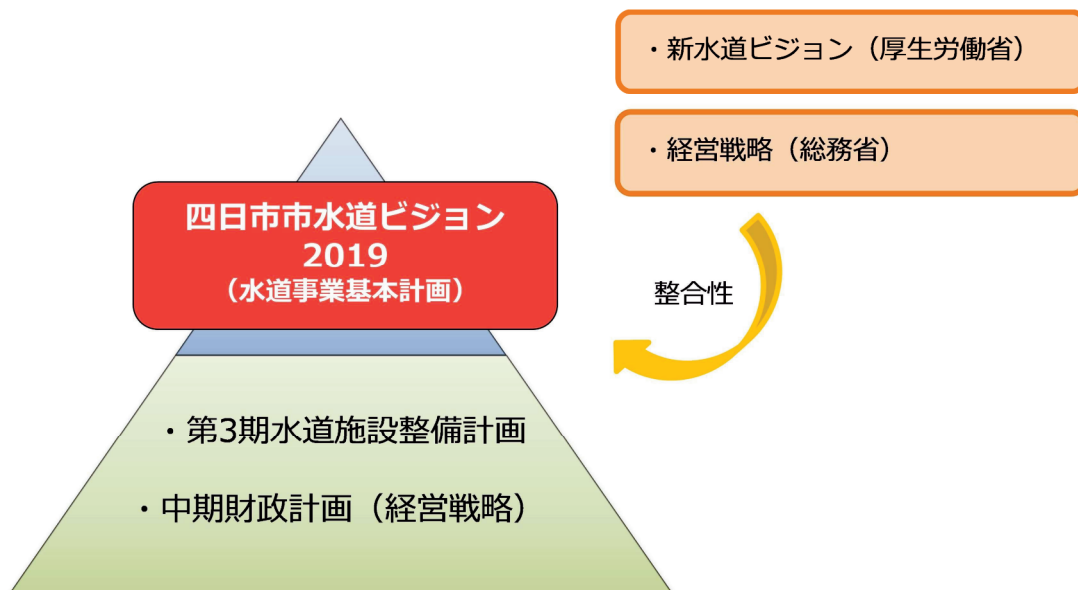
2. 四日市市水道ビジョン 2019 の位置づけ

「四日市市水道ビジョン 2019」は、本市水道事業における目指す理想像と中長期的な事業運営の方針を示したもので、理想像を実現するための施策の方向性をまとめた上位計画です。また、理想像を具現化するための施策をまとめた「水道事業基本計画」を併せて策定します。

施策の実施にあたっては、具体的に実施する事業や取り組みを「第3期水道施設整備計画」、事業や取り組みに係る投資と財源の均衡が図られるよう調整した投資・財政計画を「中期財政計画（経営戦略）」として策定します。この計画について、見直しを行いながら、予算に反映して事業を実施していきます。

なお、このビジョンでは、厚生労働省が示した「新水道ビジョン」の内容と整合を図るとともに、総務省が策定を求めている「経営戦略」の内容も総合的に包含できるよう策定しています。

四日市市水道ビジョン 2019 の位置づけ

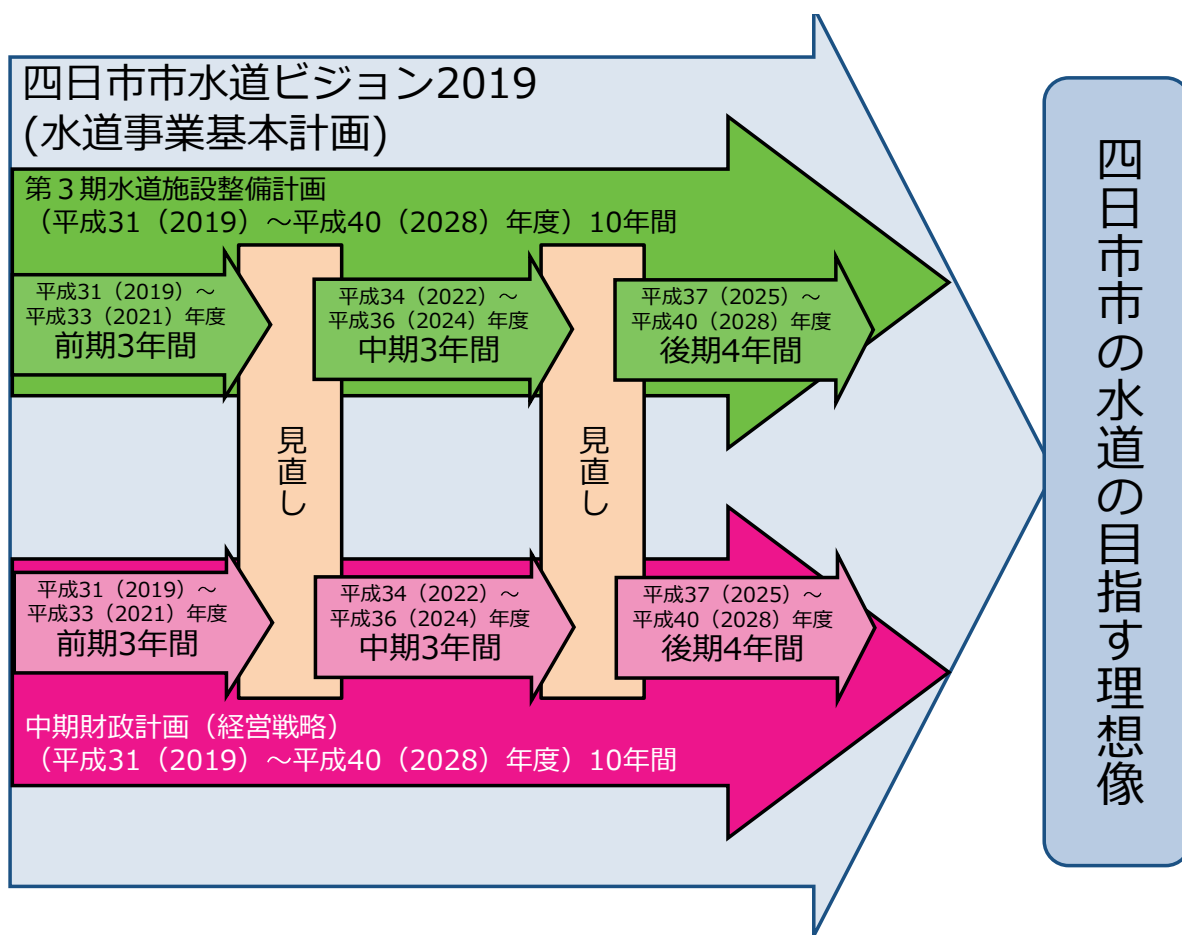


3. 計画期間

「四日市市水道ビジョン 2019（水道事業基本計画）」は、本市の水道の目指す理想像の実現を目的とし、計画期間を平成 31（2019）年度から平成 40 年（2028）年度までの 10 年間とします。

また、このビジョンと併せて策定する「第 3 期水道施設整備計画」と「中期財政計画（経営戦略）」は、計画期間を前期 3 年間（平成 31（2019）～平成 33（2021）年度、中期 3 年間（平成 34（2022）～平成 36（2024）年度）、後期 4 年間（平成 37（2025）～平成 40（2028）年度）の 3 期に分けて進捗管理を行い、事業環境や社会環境の変化に応じて見直しを行いながら、効率的かつ確実に事業を推進していきます。

四日市市水道ビジョン 2019 の計画期間



4. 四日市市水道事業の概要

(1) 事業の沿革

本市における水道の誕生は、四日市港と深く関わっています。四日市港は、伊勢湾内では最初の開港場として、明治 32 年に指定を受け、外国船舶も寄港するようになりました。その後、船舶の大型化に対応するため、入港船舶に対する給水施設の整備が必要となり、大正 8 年には「四日市給水株式会社」が設立され、生桑水源地在建設されました。

このようにしてできた水道は、当時は殆どが船舶の給水のみに限られ、市民の殆どが井戸水に頼っていました。しかし、臨海部などでは水質が悪く、飲料に適するものはわずかであったため、衛生管理の面から水道設置の計画が持ち上がり、昭和 3 年に四日市給水株式会社の施設を買収して、市の上水道が誕生しました。当初は、わずか 280 戸に給水できる程度でしたが、その後は施設の増設や給水区域の拡大を図り、昭和 62 年 4 月には市の全域が給水区域となりました。

その後、4 期にわたる拡張事業と 1 期の施設整備計画を展開したのち、第 2 期水道施設整備計画として、高度浄水処理設備の整備や基幹施設・管路の更新と耐震化を進めてきました。



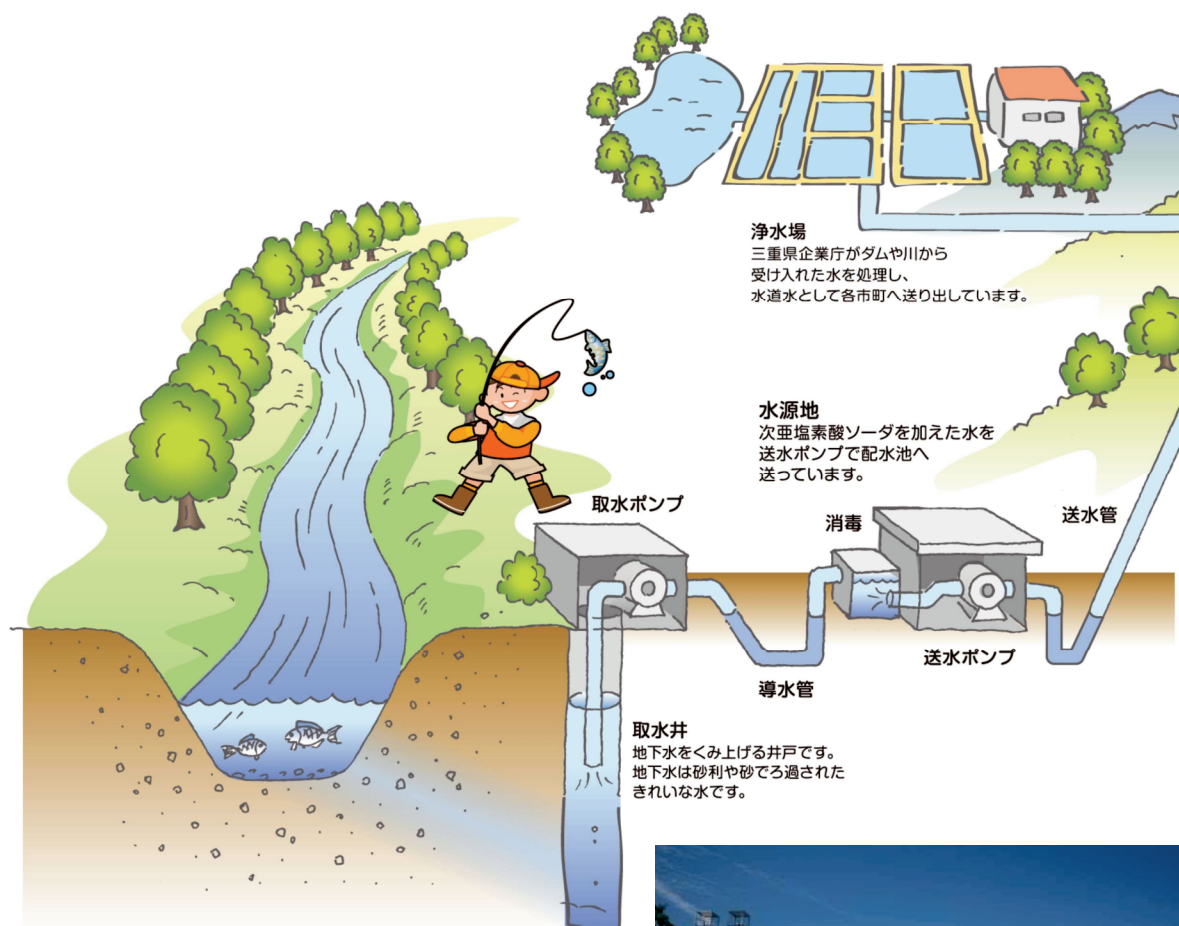
四日市市の水道誕生の地（生桑水源地在）

年表 四日市市水道事業の沿革

年・西暦		主な出来事
昭和 3	1928	四日市市の上水道が誕生（50,000 人・6,950 m ³ /日）
昭和 16	1941	町合併に伴い富州原町上水道施設（15,000 人・2,505 m ³ /日）を市が継承
昭和 24	1949	第 1 期拡張事業（給水区域拡張）（120,000 人・24,000 m ³ /日）
昭和 31	1956	〃（変更）（大矢知水源地の改良、河原田水源の開発）（104,000 人・26,000 m ³ /日）
昭和 35	1960	第 2 期拡張事業（給水区域拡張、三滝水源の開発）（160,000 人・48,000 m ³ /日）
昭和 36	1961	〃（第 1 次変更）（三滝水源の増強、朝明水源・内部水源の開発）（191,000 人・74,500 m ³ /日）
昭和 38	1963	〃（第 2 次変更）（朝明水源の位置変更）
昭和 40	1965	〃（第 3 次変更）（朝明水源・内部水源の増強、三滝西水源の開発）（241,500 人・99,000 m ³ /日）
昭和 44	1969	第 3 期拡張事業（給水区域拡張、員弁水源の開発）（258,200 人・134,200 m ³ /日）
昭和 46	1971	〃（第 1 次変更）（小牧水源の開発）
昭和 47	1972	〃（第 2 次変更）（三重県企業庁の水道用水供給事業の受水計画（木曽川水系））（239,500 人・155,675 m ³ /日）
昭和 48	1973	〃（第 3 次変更）（員弁水源の位置変更）
昭和 54	1979	〃（第 4 次変更）（三滝西水源・員弁水源の増強、水沢を除く簡易水道を上水道に統合）（257,200 人・158,900 m ³ /日）
昭和 57	1982	〃（第 5 次変更）（朝明水源の増強、老朽施設の更新）（272,000 人・161,000 m ³ /日）
昭和 60	1985	〃（第 6 次変更）（水沢簡易水道を上水道に統合）（275,700 人・162,700 m ³ /日）
平成元	1989	第 4 期拡張事業（三重県企業庁の水道用水供給事業の受水計画（三重用水系）、水質改善のためのアルカリ剤注入設備の導入）（304,000 人・191,300 m ³ /日）
平成 6	1994	〃（第 1 次変更）（中上取水場の水源開発）（305,000 人・191,900 m ³ /日）
平成 11	1999	第 1 期水道施設整備計画（平尾取水場の水源開発、三重県企業庁の水道用水供給事業の受水計画（長良川水系）、老朽施設の更新と耐震化）（310,000 人・192,000 m ³ /日）
平成 17	2005	四日市市上水道事業届出（三重郡楠町合併に伴う届出）（322,000 人・191,800 m ³ /日）
平成 22	2010	第 2 期水道施設整備計画（朝明水源地に高度浄水処理設備の整備、基幹施設・管路の更新と耐震化）（312,600 人・150,500 m ³ /日）

（計画給水人口・計画一日最大給水量）

四日市市の水道システム図



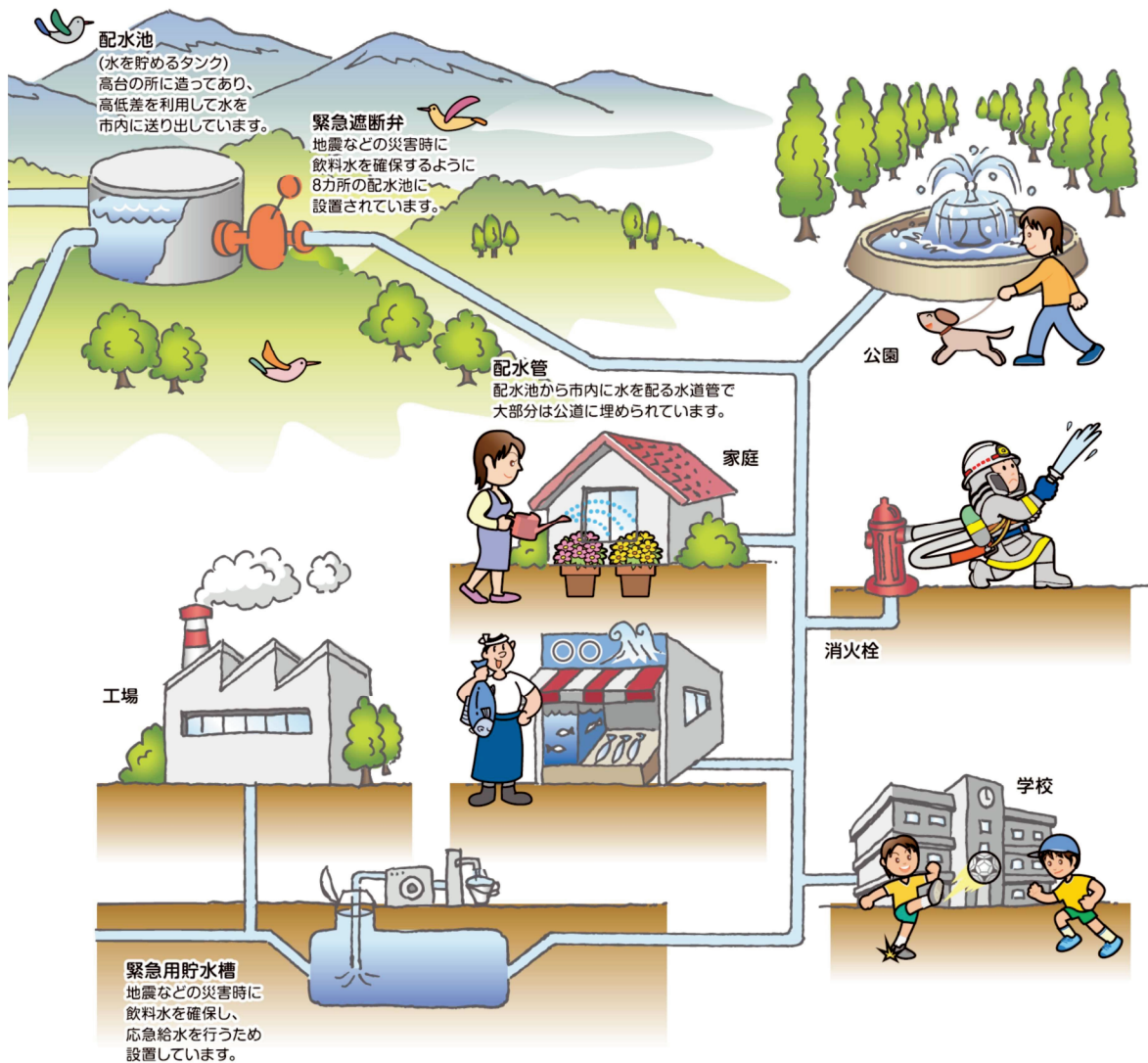
朝明水源地



三滝3号井の取水井（井戸）



朝明水源地の送水ポンプ設備



山ノ手配水池



耐震型緊急用貯水槽（楠中央緑地内）

水道施設の概要

水源地

単位：m³/日

名 称	水源種別	施設能力
三滝水源	地下水	22,610
三滝西水源	地下水	17,580
内部水源	地下水	18,130
朝明水源	地下水	13,220
小牧水源	地下水	38,350
三 企 重 業 県 庁	木曽川用水系	受 水 36,200
	三重用水系	受 水 41,800
	長良川水系	受 水 2,200
計		190,090

配水池

単位：m³

名 称	池数	有効水量
生桑配水池	2	18,015
みゆき配水池	2	1,440
一生吹配水池	2	12,000
高岡配水池	2	12,250
水沢北谷配水池	1	10,000
水沢谷町配水池	1	520
水沢配水池	2	710
桜台配水池	1	1,000
山ノ手配水池	3	9,700
笹川団地配水池	1	1,000
朝明配水池	3	17,900
山村配水池	1	2,500
あがた配水池	2	18,000
あかつき台配水池	2	2,800
楠配水池	2	4,500
計	27	112,335

管路

単位：m

名 称	延長	割合
導水管	31,021	1.46%
送水管	36,801	1.73%
配水管	2,053,606	96.80%
計	2,121,428	100.00%

(口径別延長)

口径	延長	割合
800mm	1,023	0.05%
600mm	40,403	1.90%
500mm	44,635	2.10%
450mm	426	0.02%
400mm	94,203	4.44%
350mm	1,380	0.07%
300mm	42,779	2.02%
250mm	69,780	3.29%
200mm	172,999	8.15%
150mm	185,249	8.73%
100mm	715,732	33.74%
75mm	43,646	2.06%
50mm以下	709,173	33.43%
計	2,121,428	100.00%

平成29年度末時点



生桑配水池（2号池）

第
1
章

第
2
章

第
3
章

第
4
章

第
5
章

第
6
章

第
7
章